

# 縄南中通信



平成27年 5月 1日 発行  
2015年度 第2号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校  
校長 日比野功

教育活動の重点キーワード

## 「縄南道」の形成、「心・技・体」の研鑽

### ゴールデンウィーク明けに最初の勝負の時がやって来る！

新しい学年がスタートして約3週間が経ちました。新しいことを始めてからの3,4日、2週間～3週間、また約3ヶ月、そして2年～3年という期間は1つの勝負の分かれ目となる数字です。世間には「三日坊主」という言葉がありますが、これは頑張ろうと思っても3日くらいしか続かない、あるいは3日くらい続けるとしんどくなってやめてしまう事のたとえです。また「4月病」「5月病」という言葉もあります。これは新年度になって新しい環境が始まったものの、なかなか自分の思うようにならなかつたり、思っていたことと感覚が違ったりして嫌になったり、逃げ道を求め出したりして、4月当初の新鮮な思いに行き詰まり始めるのがこの時期であるため、そうした言葉でまとめられているものです。目の前の高い山を登るのに、登り始めて少しすると必ずしんどくなります。もっと楽な道はないかなと迷い、違う道、また違う道とあれこれ方法を変えるのですが、しかしどの道を選んでもしんどいことには変わりありません。楽な方法を求めても結果として目の前の高い山を登りきることはできません。最初にチャレンジしようと思った道を、しんどくて休憩することがあっても1歩1歩、少しずつでも着実にコツコツと進めば、そのうち気づけば真ん中に、そして頂上付近にと進んで行き、最初の到達点である目の前に見えていた高い山の頂上が見えてくるのです。4月8日（水）の始業式に「土日明けの13日（月）が最初のポイント」と話したのも、先日の集会で「次のポイントは5月連休明けの登校する日」と伝えたのもこうした意味を含んでのことです。「縄南道」では「意識」が変われば「行動」が変わり、「行動」が変われば「習慣」が変わり「習慣」が変われば当然「結果」が変わると伝えていきます。この「意識」の改革がとても重要です。「三日坊主」で終わってしまう時、あるいは2,3週間で終わってしまう時に、がんばる気持ちがなかったのかと問われると決してそうではありません。しかし継続できなかった時には必ずそこには言い訳が存在します。結果を残す時には全員と言っても過言ではないほど、すべてが「三日坊主」や「2,3週間の戦い」に打ち勝ち継続して乗り越えて少しずつ目標に近づいて行くものです。やる気があってもやれなかったのは、やる気がないと結果が同じですから、やる気があるかないかではなく、やれたのかやれなかったのかという視点で頑張ってチャレンジして下さい。学校では家庭訪問週間に入り授業の時間が少なくなっています。仮入部の1年生も混ざり、クラブ活動も新しい集団で「心・技・体」すべてにおいて1つ1つ丁寧に積み上げなければならない時期ですので、歯を食いしばって一丸となって「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を心がけ高いレベルに挑戦しましょう。「意識」の改革がなされ「行動」の改革に繋がって行けば、だいたい3ヶ月～4ヶ月もすればいつの間にか「習慣」となります。例えば「10分早く準備をする」といった行動も3ヶ月～4ヶ月も続けば、おそらく「10分早く準備をする」という「習慣」となっているはずです。大人になって社会人となれば、こうした「習慣」は必ず大きな力となりますので、

しっかりと「意識改革」から始めて下さい。やれなかった時には「言い訳」が存在すると伝えましたが、「言い訳は進歩の最大の敵」ですので、日本一を旨とする縄手南中学校の生徒諸君はぜひしっかりと心に留めておいて下さい。ちなみに「石の上にも3年」という言葉もあります。この言葉も同様の意味ですのでこれもしっかりと意識しておいて下さい。ゴールデンウィーク明けの縄手南中学校生徒全員の「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」に期待しています。

#### 大阪学芸高校硬式野球部前監督 川村誠一先生の講話から

#### ～「学校生活6時間のあり方でクラブ時間の練習の成果が生まれる」～

先日の日曜参観の1時間目に「縄南道」集会として大阪学芸高校前野球部監督で、現在は大阪学芸中等教育学校の教頭であられる川村誠一先生からお話しを頂きました。川村先生が高校野球で選手を指導されてきた過程で、当初は時間をかけてひたすら練習をされ、その結果として選手は技術的にはとても上手くなったもののなかなか結果がついてこなかったのが、何が足りないのかと問われたそうです。そこで見えて来たことが、選手達は確かに時間をかけて一生懸命に野球の練習をするようにはなったけれど、野球を離れた学校での授業の様子や学校を離れた生活の様子は野球の練習をしている時間の様子とはほど遠い状況であったそうです。そこで川村先生はその後のミーティングや練習では、野球の技術よりも野球を離れた時間での在り方にこだわられたそうです。そうすることにより結果は自然とついてきたと話されていました。「縄南道」ではある一定の時間をかけ、ある一定の一生懸命な練習をすれば、おそらくベスト16くらいにはなれるが、それ以上の結果を残すためには個々の選手の「人格形成」が必要であると考えています。それは高いレベルでは「雑」な1つのプレーがすべての努力を水の泡としてしまう結果に結びついてしまいかねないからです。そのようなことから「勝因」とは「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」であり、「敗因」とは「いい加減」「適当」「だいたい」であるとしています。川村先生が話されたことは、まさしく高いレベルで選手が育つ過程を教えていただいたと感じます。また、一生懸命に練習することについても、自分の好きなことにしか取り組まず、自分の嫌いなことは避けていることもあり、嫌いなことや苦手なことにも挑戦してやっていかなければならないことも教えて頂きました。また川村先生は、「三日坊主という言葉があるけれど、三日坊主でもそれを何回も繰り返せば良い。」と話されていました。1週間に三日坊主を2回やれば毎日続かなくても6日実行したことになります。1ヶ月に三日坊主を5回繰り返せば2日1回はチャレンジしたことになります。何事も好調な時も不調な時もありますが、どんな方法でも継続すればそれは力となります。2015年の「縄南道」のスタートにあたり、とても大切なお話を聞くことができました。川村先生は縄手南中学校3期生で君たちの先輩に当たります。来年度は縄手南中学校創立30周年を迎える年ですので、そのような機会にもまたお会いすることもあるかもしれません。高校野球の監督として選手を指導してこられた先生から、また君たちの先輩からのアドバイスとして川村先生からいただいたお話を縄手南中学校の生徒みんながどのようにとらえ、これからどんなふうに変えて行動できるのが楽しみです。縄手南中学校は日本一を旨としています。縄手南中学校は「夢を叶える」ことのできる学校です。この目標を実現させるためにしっかりと「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を実行し、縄手南中学校全員で前進して行きましょう。



#### クラブ等の主な記録

剣道部 2段昇段 相川大海(3年)

初段昇段 海野花果 坂元みのり 黒岩璃子 伊藤詩音 松田紳吾(全3年)

相川匡海 山本壮一郎 田伏瞬也 中山百恵 池野杏美(全2年)